商学会委員会
2004 年 06 月作成
2026 年 10 月改正

『三田商学研究』執筆要項

『三田商学研究』に執筆される方は，以下の要項・要領をお読みの上，ご執筆ください。

目次

Ⅰ．執筆要項
1. 完全原稿
2. 原稿の締切
3. 原稿の枚数
4. 図・表の作成
5. 校正
6. 抜刷
7. 再掲・転載

Ⅱ．原稿作成要領
1. 表記法
2. 数字
3. 数式
4. AI ツールの使用
5. 注
6. 引用文献
7. 文献表記の例
8. 逸脱の特例

Ⅲ．要約・キーワード作成要領
1. 枚数
2. 字数
3. 重複回避

Ⅳ．その他

別紙：大学院生の投稿方法と投稿原稿の取り扱い

Ⅰ．執筆要項

1．完全原稿

（1）印刷では，組版がもっとも時間と手間のかかる工程です。校正段階での原稿修正は，印刷コストを上昇させ，雑誌の定期的刊行にとって，大きな障害となります。執筆者は，この点を十分に理解され，完全原稿をご提出下さるようご留意ください。また，上記の趣旨からパソコンでの論文作成に，ご協力くださるようお願いいたします。

（2）タイトル（和英両語），著者名（和英両語），論文の要約（和英両語），キーワード（和英両語）を含む原稿を，ご提出くださるようお願いいたします（Ⅲ．要約・キーワード作成要領参照）。

2．原稿の締め切り

（1）原稿の締切日を厳守してくださるようお願い致します。締切日につきましては，商学会誌室にお問い合わせください。

（2）万一，ご都合により遅延される場合は，至急，商学会誌室までお申し出ください。

3．原稿枚数

（1）論文冒頭（タイトル・著者名・要約・キーワードを含む）から論文末尾（文末脚注・引用文献・補録を含む）の総ページ数は，デフォルト設定のままの行数・行内字数の MS-Word 原稿で 24 ページ以内（ただし，「書評」「論文紹介」「学会参加レポート」は 5 ページ以内）を厳守して，経費節約にご協力ください。著しく長い原稿の場合には，あらかじめ編集委員にお話しおきください。MS-Word の『三田商学研究』用テンプレートを用意しております。

（2）印刷された完全原稿とあわせて，USB メモリあるいは CD-R 等でのデータ提出にもご協力ください（USB メモリは返却します）。事務局<society@fbc.keio.ac.jp>宛へのメールの添付ファイルでも受け付けます。

4．図・表・算式の作成

（1）印刷コスト節約のため，図・表の数はなるべく少なくしてくださるようお願いいたします。なお，複数個の図でも，1 箇所にまとめて，1 個の図として取り扱うことができる場合があります。他所に出典をもつ図表は，文章の引用とは異なり，出典を明記するだけでなく著作権者の転載許諾を必ずお取りください。

（2）正確を期する図表は，投稿時に本文中に組み込むだけでなく，別ファイルにも大きく描く

などして提出してください。エクセルなどのソフトを使用して作図されたグラフの場合，数値データとあわせてエクセルデータのままご提出いただければ，正確に作図できます。

5．校正

（1）校正刷りでは，印刷上の誤りや不備を訂正することを主眼とし，原稿を訂正することはご遠慮願います。査読を経て採択された場合，原稿を訂正することは厳に慎んでいただき，訂正を希望する箇所が見つかった場合には商学会誌室にご相談いただけますようお願いいたします。

6．抜刷

（1）希望する著者に，抜刷を作成いたします。原稿提出時に，希望冊数をお知らせください。論文 1 篇につき最大 50 部を無料で作成いたします。51 部以上は，1 部につき 50 円（税別）の著者負担となります（料金は，出版社から請求され，商学会は関与いたしません）。

7．再掲・転載

（1）掲載された原稿は，他所に再掲・転載いただいてかまいません。ただし，クリエイティブコモンズ国際ライセンス CC BY-NC-4.0 の許す範囲で行ってください。また，再掲・転載先が，既掲載原稿を多重投稿や自己剽窃として扱うことがありますのでご注意ください。

Ⅱ．原稿作成要領

1．表記法

（1）横書き，新仮名遣い，新字体使用を原則とする。当用漢字を中心とし，あまり難しい漢字は避けてください。

（2）句読点は，カンマ（,）とマル（。）で表記してください。

（3）傍点は該当する文字の上に打ってください。

（4）和文では，引用文にかぎ括弧（「」『』）を使用し，クォーテーション・マーク（‘ ’ “ ”）は使用しないでください。

2．数字

（1）原則として算用数字。数の意味がまったく無いものや，熟語，成句，固有名詞に限って和数字を用いてください。

（例 1）1 つ，1 点，1 人当たり 5ｇ，第 2 に，第 2 次世界大戦，前 2 者，2 通り，
4 捨 5 入，2.26 事件，18－19 世紀，3・4 日

（例 2）一定，均一，一致，一般，一応，一義的，一足跳び，一切，一様，一部分，
同一視，青二才，十分条件，八百屋，二百十日

（例 3）第 1 四半期，第 2 四半世紀

（2）ただし，以下は，上記第 1 項の例外とします。

〔ア〕概略にあたっては，和数字を用いてください。

（例 4）数十日間，数百キログラム，百数十ページ，何万人

〔イ〕化合物の名称には和数字を用いてください。

（例 5）二酸化炭素，四三酸化鉄

（3）大きな数字を使うときには，兆・億・万の単位語を入れてください（この際は，位取りカンマを入れないでください）。なお，千の位の単位語の使用は，適宜ご判断ください。

（例 6） 30 億 5568 万人，7 万 6000 人（または 7 万 6 千人）

３．数式

（１）数式を１行に詰めすぎないでください。

（２）複雑な添字（suffix）は，つとめて避けてください。

（３）ギリシャ文字には青丸をつけて区別し，ベクトルはゴシック指定を行ってください。

（４）変数は原則としてイタリック指定を行ってください。校正の際には指定どおりに表示されているかご留意ください。

（５）上ツキ，下ツキや分数は，組版に手数がかかりますので，原則として，以下の方法にしたがって書くようにしてください。

避けてほしい表記法の例	使用する表記法の例
a. $\overset{\nu}{\gamma}$ ， $\overset{o}{\Lambda}$	γ*，$\Lambda^{\#}$
b. $e^{-\frac{x^2+y^2}{a^2}}$	exp｛－（x^2+y^2）／a^2｝
c. $\sqrt{a^2+b^2}$	√(a^2+b^2)　または　$(a^2+b^2)^{1/2}$
d. $\frac{7}{8}$ ， $\frac{a+b}{c}$	7／8 ，（ $a+b$ ）／c
$\frac{\cos\frac{1}{x}}{\sqrt{a+\frac{b}{x}}}$	$\frac{\cos(1/x)}{(a+b/x)^{1/2}}$
e. $\sum_{t=0}^{n}$ ， $\prod_{t=1}$ ， $\int_0^{\gamma}$	$\sum_{t=0}^{n}$ ， $\prod_{t=1}^{\infty}$ ， $\int_0^{\gamma}$
f. x_{i_1} ， $_{i_2}$ ， …… $_{i_n}$	x（i_1 , i_2 , ……, i_n）
g. $\frac{df(x)}{dx}$ ， $\frac{\partial^2 f(x,y)}{\partial x \partial y}$	f' ，f_{xy}　または　df/dx ，$\partial^2 f$（x , y）／$\partial x\,\partial y$

４．AI（人工知能）ツールの使用

『三田商学研究』は，著者自身の創造的かつ批判的思考を重視しているため，投稿論文は，著者自身が作成したものでなければならず，AI（人工知能）ツールによる成果物であってはなりません。とりわけ，AI ツールを論文レビューの手助けとして使用することはご遠慮ください。引用文献は全て，必ず著者自身がその原著をお読みください。

AI ツールの使用は，プログラム，スペル，あるいは文法等の校正にのみ使用してもかまいません。その場合であっても，AI からのアウトカムをそのまま使用することはご遠慮願います。また，AI ツールを論文の著者として記載することはできません。謝辞欄に，ツール名と使用箇所について言及してください。

５．注

（１）注（引用文献を含む）は，論文末にまとめて列記し，また本文中の当該箇所の右肩に通し番号を打つ。注番号に片側パーレーン（1)，2)）を付けてください。

（２）注記においても，原稿用紙 1 こまには 1 字以上を書き入れないでください（ただし欧文は例外とします）。

6．引用文献

（1）書物名，雑誌名は，日本語・中国語の場合は『』，ヨーロッパ語では，イタリック（ただし，ドイツ語の場合はイタリック体にこだわらないものとします），イタリック活字のない場合（たとえばロシア語），《》で表示してください。

（2）論文名は，日本語・中国語等の場合は「」，ヨーロッパ語では“”で囲んでください。

（3）脚注，文献リストにおける文献の表記は，次の順序で行ってください。ただし，発行地，発行所名，巻数，号数，発行年月のうち，不必要なものは省いてもよいものとします。

単行本：著者（編者）名，書物名（副題とも），発行地，発行所名，発行年
論　文：著者名，論文名，雑誌（または収録書物）名，巻数，号数，発行年月，ページ数
詳しくは次項に掲げる事例を参照してください。

（4）本文中に引用する場合も上記にならってください。

（5）引用文献を篇末に一括し，著者名をアルファベット（またはアイウエオ）順に配列し，本文中ではそのナンバー（例：[1]），もしくは著者名と発表年（例：鈴木（1979），括弧が重なるときは(Leontief, 1974)）と記してもよいものとします。

7．文献表記の例

（1）邦文文献

≪論文≫

1）野口祐「多国籍コンサルティング・エンジニアリング企業」『三田商学研究』第 21 巻第 1 号（1978 年 4 月），pp.18-28

2）辻村江太郎「雇用構造と労働分配率」小宮隆太郎（編）『戦後日本の経済成長』岩波書店，1963 年，pp.103-28

≪著者，編者≫

1）佐藤芳雄『寡占体制と中小企業―寡占と中小企業競争の理論構造』有斐閣，1976 年。

2）増井健一，佐竹義昌（編）『交通経済論』有斐閣，1969 年。

（2）英文文献

≪論文≫

1）Leontief, W. (1974): “Structure of the World Economy,” *American Economic Review,* 64, 823-34.

2）Lovell, M. C. (1961): “Manufacturer’s Inventories, Sales Expectations and the Acceleration Principle,” *Econometrica,* 29, 267-296.

3）Strauss, G. and E. Rosenstein (1970): “Worker Participation: A Critical View,” *Industrial Relations,* 9, 197-214.

≪著者・全集・共著≫

1）Ackley, G. (1961): *Macroeconomic Theory*. New York: Macmillan. 都留重人監訳『マクロ経済学の理論』Ⅰ－Ⅲ，岩波書店 1964-65,69.

2) Ricardo, D. (1953): *On the Principles of Political Economy and Taxation, The Works and Correspondence of David Ricardo.* Vol. 1, ed. by Piero Sraffa with the collaboration of M. H. Dobb, Cambridge: Cambridge University Press.

3）Mincer, J. (1974): *Schooling, Experience, and Earnings.* New York: N.B.E.R. 66-67.

（3）独文文献

≪論文≫

1）Bortkiewicz, L. V., Wertrechnung und Preisrechnung im Marxischen System, in:

Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik , Bd . 23(1906) und Bd. 25(1907) .

2）Slotosch, W. , Investition— Motor der Wirtschaft, in: Süddeutsche Zeitung vom 24. 10. 1967, Sonderbeilage.

3）Puhle, H.,—J., Populismus, Krise und New Deal, Zum Verhältnis von agrarischer Demokratie und organisiertem Subventionismus in der Zwischenkriegszeit, in: H.A.Winkler (Hrsg.): Die große Krise in Amerika. Vergleichende Studien zur politischen Sozialgeschichte, 1929-39, Göttingen, 1972.

≪著者・全集≫

1）Gestenberger, H., Zur politischen Ökonomie der bürgerlichen Gesellschaft. Die historischen Bedingungen ihrer Konstitution in den USA, Frankfurt am Main 1973.

2）Weber, M., Methodologische Einleitung für die Erhebungen des Vereins für Sozialpolitik über Ausless und Anpassung der Arbeiterschaft der geschlossenen Großindustrie, 1908.

（4）仏文文献

≪論文≫

1）Paoll, J., “L’équilibre concurrentiel retrouve”, *Revue française de recherché opérationnelle*, 3e trimestre 1966.

2）Le Cam,.L., “Les Proprietés Asymptotiques des Solutions de Bayes”, *Publ. Inst. Statist., and Probab.*, Vol. I, 1961, 453-468.

≪著者・全集≫

1）Walras. L. , *D’Économie Politique Pure*, R. Pichor et R. Durand, Auziras, 1952.

2) Wanty, A. et J. Feclerwisch, *Modeles globaux d’économie d’entreprise*, Dunod, Paris, 1970.

8．文献表記ルール逸脱の特例

文献表記ミスを著者と共に出版社が探し出す役割を果たしやすくするために，原則的に，上記の「6．引用文献」「7．文献表記の例」に示したルールをお守りください。しかし，学問領域のスタンダードに則した表記方法を使用したい，あるいは，将来的に著書として出版するために指定された表記方法を使用したい，といった希望に合わせて，著者は商学会委員会が定めた上記の文献表記等のルールを逸脱することができます。その場合，出版社が表記ミスを探し出すことが難しくなりますのでご了承ください。

Ⅲ．要約・キーワード作成要領

1．枚数

（1）要約，キーワードは，タイトル（和文・英文），著者名（和文・英文），本文（和文），注（和文），引用文献と同一のファイルで，総ページ数が 24 ページ以内となるように，ご提出くださるようお願いいたします。

2．字数

（1）要約，キーワードはそれぞれ次の字数でお願いいたします。

a）日本語要約（300 字程度）

b）英文 Abstract（120words 程度）

c）日本語キーワード（10 個以内）

d) 英文 Keywords（10 個以内）

なお，和英の要約およびキーワードは，タイトルと著者名の直後に二段組で組版します。第 69 巻以前の字数・語数（和文要約 800 字・英文 Abstract100 語）のまま提出なさいますと，和文要約は長すぎてトップページに納まりきれなくなり，また，二段組の部分が左右アンバランスになりますので，ご留意いただけますと幸いです。なお，原稿提出時には二段組に設定いただく必要はありません。

３．重複回避

（１）キーワードは，タイトルと共に，雑誌記事検索に使用されますので，タイトルに含まれる単語との完全一致を回避いただけますようお願いいたします。

Ⅳ．その他

『三田商学研究』では日本語の投稿論文を扱っております。英語で投稿された論文は Keio Business Review(KBR)に投稿いただいたものとして受け付けさせていただきます。英語以外の外国語で書かれた場合は，審査員の都合上，日本語(『三田商学研究』)か英語(KBR)への翻訳をお願することがあります。なお，KBR には固有の投稿規程がありますので参照ください。

『三田商学研究』に掲載された論文については，掲載号が刊行された直後に PDF ファイル化され，一般に公開されます（エンバーゴ期間は第 70 巻発刊を機に廃止されました）。ご了解の上，ご投稿ください。

商学会委員会
2004 年 06 月作成
2026 年 10 月改正

『三田商学研究』への大学院生の投稿方法と投稿原稿の取り扱い

（1）『三田商学研究』は、大学院商学研究科の大学院生の皆さんが所属する慶應義塾大学商学部・商学研究科が創設当初より年 6 号体制で出版してきた由緒ある学術雑誌です。塾内リポジトリ KOARA にて即時オンライン出版される，オープンアクセス・ジャーナルであり，掲載記事には DOI が付与されます。紙媒体でも出版されています。また，抜刷も著者に提供されています。また，原稿の著作権は，出版後にも著者が保持していただけます。

（2）原稿種別は，「論文」，「研究ノート」，「資料」，「書評」，「論文紹介」，「学会参加レポート」と多岐にわたります。「論文」は，原著性が高く，また先行研究レビューや分析方法，分析結果等に係る書式や方法についても優れた学術記事を指します。査読付きを主軸とし，査読なしが選択できる場合もあります。「資料」は，「論文」と同じく原著性が高く即時公刊の価値があるものの，書式や方法に難点を抱えた学術記事を指し，こちらも査読付きを主軸とし，査読なしが選択できる場合もあります。それ以外の原稿は査読なしです。「資料」はその名のとおり実態把握の点で学術的価値のある記事を指し，「書評」と「論文紹介」はそれぞれ書籍と論文についてレビューを行った記事を指します。「学会参加レポート」は、補助金企画と連動し，海外での学会報告の模様を報告した記事を指します。

（3）大学院商学研究科後期博士課程の大学院生は，原稿を『三田商学研究』に自由に投稿することができます。修士課程の大学院生の原稿も，指導教授の書面での推薦があれば受け付けます。推薦状は自由書式です。原稿は，「『三田商学研究』執筆要項」に従って作成してください。他誌に投稿中でも掲載済でもないものに限ります。また，投稿中・掲載後に，他誌に掲載しようと多重投稿してはいけません。

（4）大学院生によって「論文」として投稿された原稿は，単著または他の商学研究科大学院生との共著の場合，通常号・記念号の別なく必ず，商学会会員ないし外部審査員 2 名ないし 3 名（相互に匿名）による審査を受けていただく，いわゆる査読付き論文という扱いとなります。審査員の判定意見に基づいて，商学会委員会が採否を決定し，本人に通知します。審査過程において論文の改稿を指示された場合には，その指示どおりに改稿された原稿を提出してください。再審査の上で最終的な採否を決定します。再審査回数に制限はありません。また，いちど不採択と決定されても，商学会委員会が認めれば，新規に審査を受けていただくことができます。その場合には，新しい原稿に加えて，不採択時の原稿と審査コメントを提出してください。

（5）「論文」の審査の過程で，「論文」ではなく「研究ノート」として出版する選択肢が，商学会委員会から示されることがあります。著者は，ご自身による投稿前ないし投稿中の査読付き論文が「論文」としてのみ審査されることを希望するか，「研究ノート」としても審査されることを希望するかを，自由に要望することができます。また，「資料」等，「論文」と「研究ノート」以外の原稿種別の原稿は，審査なしで投稿・出版を希望することができます。

（6）大学院商学研究科の大学院生が，商学会正会員や名誉会員（典型的には，指導教授や授業担当教員）との共著で「論文」や「研究ノート」を投稿する場合，査読付きのほか，査読なしを選択肢として考慮することができます。ただし，商学研究科に博士学位を請求する際の論文掲載要件を満たすことができるのは，査読付きの「論文」を単著で執筆した場合に限るということに留意してください。

（7）「論文」や「研究ノート」の審査は，審査員が原稿を受領して 2 週間という短期間で実施されます。ただし，審査員の選定や再審査等の過程に時間を要するために，目安として，提出日から採択決定まで 3 ヵ月，採択決定から印刷まで 3 ヵ月を要します。したがって，投稿者は,提出日から刊行まで6ヵ月の日数が必要であることを考慮してください。一方，それ以外の種別に審査はありません。商学会委員会による形式確認後，すぐに入稿します。

（8）単著ないし大学院生との共著で執筆された「論文」が査読を経て採択され『三田商学研究』への掲載が承認された大学院商学研究科の大学院生には，商学会委員会が秀作論文と認めた場合，「商学会賞」が贈賞されます。また，「商学会賞」の選に漏れた大学院生にも，「研究奨励金」（10 万円）が贈られます。さらに，単著または大学院生との共著で執筆された「研究ノート」，「資料」，「書評」，「論文紹介」を投稿し『三田商学研究』への掲載が確定した大学院生にも，「研究奨励金」（2 万 5 千円）が贈られます（ただし，「研究奨励金」には一人当り年間受領上限金額に関する細則があります)。

（9）大学院商学研究科の大学院生は，商学会委員会が別途定める「大学院生学会発表補助金」と連動して，自著論文を海外で学会発表した様子を報告した「学会参加レポート」を投稿し、補助金を受け取ることができます。

（１０）掲載が確定した原稿について，出版前までの間，就職活動や学位請求に必要ならば，掲載予定証明書の発行を商学会委員会に対して申請することができます。

(2004 年 06 月　執筆)
(2008 年 10 月　改正)
(2011 年 05 月　改正)
(2026 年 10 月　改正)